

### 圏央道のスマートインターチェンジ 関連事業を推進せよ

前之園 孝光 議員



問 圏央道のスマートインターチェンジについて質問をいたします。

答 圏央道(首都圏中央連絡自動車道)は、木更津東インターチェンジから東金ジャンクションまでの42.9キロが開通して、アクアラインなどや成田などへのアクセスが非常に便利になってまいりました。千葉県知事は「本県の観光はもとより、企業立地の促進や農産物の販売拡大など、大いに期待している」等とコメントを発表しております。

本市におきまして、28年度予算につきましては、スマートインターチェンジ関連事業について2億3,580万2,000円の予算が計上されております。これまでの進捗状況と今後の予定と計画について質問いたします。

答(仮称)大網白里市スマートインターチェンジにつきましては、本体部の用地取得が完了し、東日本高速道路株式会社による本体部の工事発注の準備が進められているところでございます。また、アクセス道路部分につきましても、ほぼ用地買収を終えたことから、県道千葉大網線から二級河川小中川にかかる池田橋の区間を千葉県において、池田橋からスマートインターチェンジまでを市において、11月初旬よりアクセス道路の工事に着手いたしました。

今後につきましては、引き続き残る用地の確保に努めるとともに、関係機関と連携し、平成31年3月の供用開始を目指し事業を推進してまいります。

問 大網小学校の教室の増築について質問をいたします。

一昨年、平成27年12月議会にて「大網小学校の教室が足りなくなり、増室の必要があるのでは」と質問し要望いたしましたところ、教育長から「平成28年度中に増設する」との回答がありました。リースの契約額、

これからの進捗計画、そして29年3月までに完了し、4月の新学期までに間に合うのか質問いたします。

答 大網小学校の増築校舎につきましては、28年5月に賃借契約を締結したところでございます。その期間は29年4月から5年間で、賃借料は総額1億1,400万円余りでございます。契約終了後には市に所有権が移転することとなっております。施設の概要ですが、軽量鉄骨造り2階建て、延べ面積はおよそ580平方メートルでございます。普通教室を5部屋配置することとしており、28年10月から本格的な工事が始まり、またとところでございます。

現在は安全確保のための仮囲い作業が終了し、先ほど議員が、おっしゃいましたように建物の基礎工事が行われたところでございます。

なお、工程は計画どおり順調に進んでおり、施設の使用期限となる29年3月15日までに全ての工事が完了し、新学期からの利用に合うものと見込んでおります。

問 本市における空き家の現状と対応について質問をいたします。

答 空き家の現状把握のため、27年度から区長回覧や市の広報紙等で市民へ情報提供を呼びかけており、その情報をもとに職員により現地を確認し、空き家のデータベース化を図っており、現在のところ、空き家として把握しているものは205軒です。その中で敷地内の雑草や樹木が繁茂していない空き家が79軒あり、その所有者に対しては適正管理するよう指導を行っております。

その他、①来年度の予算編成方針、②学校のトイレの洋式化対策、③学校のエアコン対策、④スクールカウンセラーの拡充、⑤障害者差別解消法の施行等について質問 要望いたしました。

### 防災避難訓練(津波避難訓練)で 意識向上を、予防医療で健康増進を

秋葉 好美 議員



問 去る10月23日に「地域ぐるみで防災に備えよう」と題して、千葉県と合同開催の総合防災訓練が行われました。本市の避難訓練、津波避難訓練の参加者数の推移を伺います。

「平成23年東日本大震災後から今回の平成28年度まで」  
答 平成23年度が1,445人、平成24年度780人、平成25年度が651人、平成26年度が434人、平成27年度465人、平成28年度が880人でした。

問 今後防災避難訓練・津波避難訓練の参加者数を増やすために、どのようなお考えが伺えます。

答 市民一人ひとりの防災意識を高めることが重要ですが、なかでも子どもを通じて親の防災意識の向上にもつながることから、より重要であるとと考えています。

問 津波避難ビルとして指定されておりますラセル九十九里は、この9月に屋上が整備され、今回津波避難訓練として実施いたしました。私も参加したい人として、屋上に防柵や手すりがないため、大変不安を感じました。当局としては大丈夫とお考えが伺えます。

答 プラセル九十九里は屋根構造であり、常時人や物が乗ることを想定した構造ではないため、防柵や手すりを設置することは施設本体に影響を及ぼすおそれがあるため困難であります。このことから、避難者の転落防止対策として、屋上の周囲に人感センサー式ソーラーライトを設置し、立ち入り禁止区域のペイントを施し、夜間停電時でも危険のないよう対応を図っております。

問 次に8月22日の台風9号の発生により四木木の市宮住宅の屋根被害が9棟、内1棟は使用できず、8棟の今後の復旧工事を完了見込みを伺います。

1棟を除いた8棟について、軽量でありながら耐久性を向上させた屋根材を既存の屋根の上に新しく吹き直す工法を採用し、居住したまま工事を可能としたもの。現在、全ての棟に着手し年内完成をめざしております。

問 次に子育て支援について伺います。内閣府は、ひとり親家庭、多子世帯等の自立応援プロジェクト、平成27年12月、子ども貧困対策会議を決定とあり、地域子ども未来応援交付金が27年度補正予算で創設、24億円、地域の実情に踏まえつつ、全国の自治体の体制を順次整備し、複数年にわたって計画的に実施するとなっております。本市においてもこのような取り組みのお考えはあるのか伺います。

答 子ども未来応援地域ネットワーク形成事業につきましては、千葉県内では柏市が実施しております。今後、先進事例を参考にし、関係課と連携しながら研究してまいります。

問 次に予防医療について伺います。肺炎球菌ワクチンを接種することで肺炎にかからないようになるのか、又ワクチン接種でどのくらいの効果があるのか伺います。

答 成人の肺炎のうち4分の1から3分の1は肺炎球菌が原因と考えられており、肺炎球菌には90種類以上の型があります。現在、定期接種で使用されているワクチンは肺炎球菌感染症の原因の約7割を占める23種類の型を予防の約7割を占める23種類の型にかかったときの重症度と死亡のリスクを軽減させる効果が期待できます。効果は接種してから免疫ができるまで約3週間かかります。肺炎球菌ワクチンの免疫は5年以上持続すると言われております。

その他ノロウイルスの対策と対応について、本市の小中学校・大網病院・市役所内等質問いたしました。

### 中学校部活動、教師の負担を軽減しよう。 生徒の選択権も拡大しよう!

黒須 俊隆 議員



問 日本の教員は世界一忙しい。文部科学省初等中等教育局の報告書によると、教諭の残業時間は、昭和41年では8時間だったが、平成18年は42時間。厚生労働省の統計調査、30人以上の事業所規模月間所定外労働時間は約13時間。いかに教員が過酷な労働をしているのかがわかる。

これだけ過酷な労働勤務の中でクオリティの高い授業や生徒指導ができるのか疑問だ。超過勤務の要因の一つが部活動にあるのではないかと。部活動の顧問はどのように決められているのか。

答 教職員は、あくまで各教科の指導者であって部活動専門の教職員ではありません。したがって、生徒の活動を支えるために教職員の希望や考え等を十分に聞きながら、顧問の割り当てを行っているものと認識しております。また、主顧問、副顧問といった違いはありますが、生徒主体の部活動を支えるため、基本的には何らかの形でかわりを持つよう、各学校で教職員を配置しているところです。

なお、教職員個々に過度の負担とならないよう、また生徒への十分な指導が可能となるよう、各部活動において複数による顧問の体制をとるなど配置にも工夫しているのと伺っております。

問 無理のないように配慮しているというご回答でしたが、超過勤務であるのは間違いなく、休日手当3,000円のみで、平日は手当もない過重な勤務を改善していただきたい。

問 生徒は、部活動に複数所属することができるとのことですが、

答 部活動は毎日の活動の積み重ねを大切に、責任感や連帯感の涵養等に資するものであると認識しております。1つの部活動に専念することが望ましいと考えられます。しかしながら、部活動への加入は任意として

取り扱われるべきものでありますので、生徒本人から複数所属の希望があれば、その可能性も含め関係する顧問等と十分に協議を行い、生徒にとって有効な方向性を見出すことが必要であると認識しております。

問 スポーツクラブや学習塾などの併用ができるのか。

答 スポーツクラブの活動時間や内容、学習塾の時間帯等との関係もありますが、併用は基本的に可能であると考えられます。

問 生徒の減少に伴う部活動の種類の減少があるのか。

答 生徒数が減少傾向にある中学校におきましては、団体種目のメンバーが組めない状況や学級数の減に伴い教職員数が削減され、顧問の配置ができない状況にあるといった問題が生じており、やむを得ず休部に至った部活動もあると伺っております。

問 旧文部省は中学校部活動の休養日を最低2日設けるように指針を出している。しかしほとんどの中学校で守られていない。顧問の負担を軽くする、また生徒の健康を保つために過重な活動を適正化するガイドラインが必要だ。

民間企業やNPOから外部コーチを派遣してもらい部活動の指導をしている学校もある。技術面での指導を充実した上で教員の負担を減らすことができる。

さらにもっと大胆に、例えば野球部は月・水・金で、サッカー部は火・木のように半分でもいいのではないかと。スポーツが好きな人は野球もサッカーもやる。月・水・金だけスポーツをやって、火・木は読書などをすることもできる。顧問の負担も半分になるし、休部になっていない部活動も復活できるのではないかと。